会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和4年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業（３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回運営委員会 |
| 開催日時 | 令和4年7月19日　10時00分～12時00分 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：岡村　慎一、五十部　昌克、藤井　達也、松田　義弘山根　大助、増子　卓矢、谷　昌一、杉浦　敦司、冨田　伸一郎、安田　実　　　　　　　　　計11名　　　　　　　　請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　計1名オブザーバー：八木　信幸　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計13名 |
| 議題等 | 〇自己点検評価共通的評価基準モデル2022の普及・今現状で考えてますのが対面で2ヶ所、オンラインの配信リアルタイムで1回、そして後日オンデマンドでの配信を行うことを考えています。対面は福岡と東京で予定しています。福岡の担当は松田先生と飯塚さん。東京の担当は、私と飯塚さんで行います。募集定員ですが、30名から50名程度を予定しています。日程は9月30日が福岡会場、10月14日で時間は14～16時としています。オンラインは10月7日実施を予定していますが、担当などが決まっておりませんので、この辺りは決めていかなければならないと思っております。今後の予定としては、対面会場の確保を7月中。セミナーの開催案内が8月の初旬ぐらいで作成し、8月中に発送することをイメージしています。案内は職業実践専門学校への配布を考えています。参加申し込み方法はGoogleグーグルフォームを使って集計します。また。また成果報告に必要な情報は参加者へのアンケートを集計する予定です。セミナーの内容は、先ずは事業の概要をお話しいただき、普及セミナーとして約1時間八木先生にやっていただき、最後に、質疑応答というところで30点、30分程度時間を設けることを考えています。（五十部）・日程的に2ヶ月後なのでなんとも言えないんですけど、対面実施についてはいかがなものかと思いますが。（松田）・現状政府としてはですね、基本的には経済を止めないっていう方向で進んでいます。対面についても、不可能ではないという状況です。今後は爆発的に感染が拡大する可能性もありますので、少し様子を見ながら対面実施については検討が必要かと思います。また、費用面については、政府が行動制限等の措置を講じる場合には、旅費や会場費のキャンセル料などもかからないと思いますし、費用が発生したとしてもキャンセル費に関しては、事業の費用として計上することを考えています。また、現時点では十分なスペースを確保して会場を設定しておくなどの事は想定しています。（飯塚）・日程的に9月30日をもう少し後ろにずらすことは可能なのでしょうか。募集などについても気になるところです。（松田）・あまりにも募集の状況が悪かった場合には、中止をするという形を検討していく必要があると思います。本日ご検討いただいている内容は、あくまで実施委員会で講師を担当される方や挨拶を担当される方を想定し調整して提案している状態ですので、委員の皆様方の意見を集約し方針を決定していただければと思います。（飯塚）・先ほど飯塚さんから説明ありましたけどコロナの関係は今後どうなるかわかりませんけども、警戒レベルが大きく変わることがない限り対面で実施をしていくという方向でよろしいんじゃないかと思います。（高岡）・私も現状では、このスケジュールで実施することで話を進めたいと思っています。また、案内文では中止の可能性等の注意喚起をしていこうと思います。（五十部）・8月の新潟の全専研も今ところは対面で実施するという状況でどんどん進んでるんですよね。国の方向性に従いながらやっていくというのが一つの点として、大きく出てくると思いますし、そこが国の方はもうとにかく世の中回していくっていう方向で少し力を入れていくということなんですけども基本的にそうなった場合、とにかく参加するしないはもう参加する側の判断というか責任というか、そういう形ももうこれからは少しとっていかないとまずいのかなというふうに思うんですよね。最終的にはこの場合は参加人数が少なかったらという話もありますんで、先ほどの磯部さんの話で私はいいと思います。前提としてひょっとしたら中止になるかもしれませんけどと、あまりにも少ない場合は、いう前提は一つ入れておく必要があると思いますけども、もうそれで行くしかないんじゃないかなというふうに思います。（岡村）・この時期についてなんですけれども、一応事業のたてつけとしては、普及啓発セミナーということになりますが、今年度実施される簡略化モデルでの検証に参加いただく方を集めると、そのための普及セミナーでもあるという形になってますので、これはあまり時期を遅らせてしまうと、その後の事業が難しくなってしまうかなというふうに考えております。（八木）・オンラインセミナーの配信方法については、何を使うか決まっていたでしょうか。これは私の方でZoomの会議設定をした方がいいのでしょうか（五十部）・全専研が新体制になったことにより現在手続き中ですが、9月には全専研のZoomIDが取れていると思っておりましてそれが取れてるっていうことになりますと、それを使って私共が設定管理すると考えています。全専研とZoomとの契約内容がハッキリしてからの検討になりますが、ウェビナー契約に対応していれば上限を求める必要はありませんが、標準的な契約ですと80人定員ぐらいが適当ではないかと考えています。・了解しました。（五十部）・会場等の設定に関しては、福岡・東京ともに飯塚さんにお願いしてよろしいでしょうか？（五十部）・了解しました。（飯塚）・私はセミナーの案内文を作成し、8月中に発送できるよう準備を進めていきたいと思います。（五十部）・人数が少なくキャンセルになった場合の費用は大丈夫なのでしょうか。また参加者が少ない場合の近隣学校の動員についてはどのように考えれば良いでしょうか（高岡）・政府から行動制限等が出ている場合には、費用はあまり問題ではないと思います。むしろ政府が制限をしていない段階で各校の取り決めとして参加できなくなった場合は自己都合によるキャンセルと見えてしまいますので費用が自己負担になってしまいます。このことを踏まえて、対面実施のご議論をしていただきたいです。（飯塚）・参加者の旅費はどうしようもないですね。（高岡）・現状は、状況がハッキリしないのでもう少し時間を見て判断したいと思います。（五十部）・主催者側から研修キャンセルになった場合は、受講者は自己都合によるキャンセルではないが費用を負担しなければならないのでしょうか。（山根）・受講申し込み者に対しては、SNS等を利用して頻繁に情報を提供していく必要があると思います。また、セミナー実施予定2週間前等の段階で実施の判断をしていき、皆様方にお伝えするようなことも必要かと思います。（飯塚）・了解しました（山根）〇第三者評価認証簡略化モデル及び組織運営ガイドラインの開発／検証簡略化モデルは2021年昨年度末に成果報告させていただいたわけですが、こちらの精査と、それと同時に運営ガイドラインをもう少し精度を高めたものを作った上で今年度に実際にそれを実証し、施行するといった流れになります。ですので、まず前半部分として簡略モデルの精査と、運営ガイドラインの開発を7月から9月にかけて開発します。その後簡略化モデルおよび運営ガイドラインの審査受診を実際に試行し行きます。協力機関として、私立専門学校等評価研究機構、それと専門職高等教育質保証機構に協力を依頼したいと思います。依頼に関しては高岡先生、岡村先生に依頼していただきましたので、その報告をお願いいたします。（五十部）・第三者評価について機構様との調整をさせていただきました。結論から言うと、私共の方がやっていこうとするこの簡略化モデルというものの位置づけをどこにするかということの調整をさせていただきました。つまり自己点検自己評価は各学校でやっていますが、これを第3者評価に結び付けていくための間にこの簡略化モデルというものを入れていきたいんだということは合意をしていただきました。また、機構様は、本年度も事業を継続していかれるということで、基幹分野の第三者評価と、それから専門分野、分野別の評価の多様な分野の立ち上げ支援、こういったところをしていきたいということでした。文科省は2000校にのぼる専門学校がもっと簡略的に質保証を上げるための第三者による強化というものを受けるための体制作りをもっと簡単にできないものかという意向がございます。私どもとしては、ぜひこの簡略モデルを先ほど言ったようなシステムの中の階段状に位置づけていきたいと思います。機構様の今の審査員に該当される方今日も電子学園の大杉浦さんにも出てもらってますけども船山校長が今回理事にもなられてますが、そういったところの審査の経験のある方にも、今回のモデルの財産評価に一緒に入っていただいて、我々がやろうとしてることとの違いであったり共通項であったりっていうことを、お互いに声を掛け合いながら審査基準をすり合わせていくことで、より充実したものになるんではないかと考えています。着地点としては来年度以降にこれを基にしながらこの普及継続とあわせて、各中小の地方の専門学校にこの質保障に関わる造詣のある人員を増やすための人材育成ということをもっと積極的にやりたいということに対して、キャリア財団そして機構様の方もご理解をいただいたということになっております。（岡村）・高岡先生もう一つのカフェの方のご説明をお願いいたします（五十部）・結論を言うと、断られました。最初の段階でいろいろご説明をしていく中で簡略化モデルのことについて昨年ご協力いただいたのでその辺のお礼とどういう成果物ということをお見せしながら、少し話を進めていきました。最初の段階では、簡略化モデル自体は非常に共感していただいて、これはとても大事だと私もそういう意味では簡略化っていうのはすごく大事だと思ってるというところからスタートしました。私共との一番の違いは、審査をする方々を固定させ、審査の方々がある程度どういうことを審査するのかということのプロになられてるのが他の機構で、カフェさんについては、それぞれの学校に適した人材を川口先生代表が審査をする前に教育する方法としており、具体的にどういうことを協力してほしいという話になったときに、最初の段階で、それは無理です。というふうにはっきりと断られました。直接協力することはできないにしても、何か意見を言うこと自体はできると思うのでまた別の形で何かあれば協力はさせてもらうというような話で、最終的には終わりました。（高岡）・結論として機構様には協力いただけるがカフェ様の協力は難しいということのようです。八木さんJAMOTEはいかがでしょうか。（五十部）・JAMOTECの方では積極的にご協力ができるというふうに考えております。引き続きよろしくお願いいたします。（八木）・予定よりもちょっと審査対象が入ってしまいましたけれどもそれは特に問題ないでしょうか。（五十部）・カフェさんにはご協力いただけそうにないということなので、認証機関が２つとなました。２つのうちどちらか1機関が2ヶ所をやるというのも一つの手ですし、もし予算的に問題がなければ、２校ずつやってもらうということで機構側と相談してもいいのかなと思ってるんでいますが、飯塚さん、岡村さんいかがでしょうか。（八木）・予算の残高的には問題ありません。本来の目的と合致しているのであれば、2機関が2校を審査する方向でご決定ください。（飯塚）・要は受審していただけるところがあれば、それは調整していくことがいいかなと思っています。これを純粋に受けたいというところと、大変だけども、委員のメンバーだから受信しましょうかっていうところもあるでしょうし、この辺りを明確にしておかないと、配置がしにくいかなという気がします。（岡村）・データ的にも少なくなってしまうのは少し心配です。現状として2機関に2校ずつ受審していただくこととして調整したいと思いますがいかがでしょうか。（五十部）・受審校の募集の方法ですが、我々が行っている内容をある程度ご理解いただいていない学校さんの募集は難しいと思いますがいかがでしょうか。（五十部）・自己点検の普及セミナーの受講者を募集する段階で、その案内を通じたこちらの募集をしたらいかがでしょうか？受審したいので普及セミナーはいつですかという問い合わせも実は来ていますよ。（岡村）・わかりました。それはセミナー案内にこちらの募集なども含めることとして案内の準備をさせていただきます。（五十部）・4校やろうとすると同じ人が全部行くよりも、少しずつ変えながらやってた方がいいのかなっていう気もしますけど、いかがでしょう。（岡村）・委員の先生方からメンバーを構成してトータルで4名程度といった形でよろしいでしょうか？ちなみに機構から人を出していただける場合というのは1名もしくは2名程度という想定でよろしいんですか。（五十部）・だと思います。（岡村）・審査をしたことのない人も審査員になれるんですかっていう点が一つあるんですけどそこはいかがなんでしょうか？多分ここにいるメンバーでも審査員の経験がある人が何人かいらっしゃるんじゃないかなと思うんですよね。安田さんいかがでしょうか（岡村）・トレーニングを受けておかないと、どうしても自分の経験の中での評価になってしまうっていうことがバイアスとしてあると思うので、ある程度、審査員のプログラムを作り上げていくことが重要であると思います。（安田）・JAMOTECの審査員は一応全員把握してるんですけれども、機構の方の審査の経験をお持ちの方っていうのがこの委員会の中で何人ぐらいいらっしゃいますでしょうか。安田先生、杉浦先生は機構の方の審査のご経験はありますでしょうか？（八木）・学校として受審はしてるんですけども私自身が審査をした経験はありません。（杉浦）・私は大学の認証評価の審査員をしています。専門学校をやった経験はございません。（安田）・杉浦さん船山校長か、古賀先生はやってましたよね。（岡村）・そうですね古賀と船山は確か過去にはあるんじゃないかなと思います。（杉浦）・その辺りの先生方にご協力をお願いするっていうことは岡村先生できそうですか（八木）・この前、古賀先生とはお会いしてちょっと打診しておきました。（岡村）・機構から2名ぐらい出していただくお願いをして、こちら委員会側からも2名ぐらい人選しておく必要がありそうですね。（八木）・冨田社長が推薦していただければいくらでも出せるんじゃないかと思いますけどいかがでしょう。（岡村）・そうですねISOの方の審査員はおります。学校評価は、私が大学を担当しています。非常に第三者だというふうには思っております。（冨田）・これから審査員のガイドブックというか指示書を作らなきゃいけないことを考えるといろんな見識を持ってらっしゃる方が融合されてやっていくっていうのも、第一のスタートとして必要ですよね。受審者像として企業側の考え方、大学の考え方みたいなところを混ぜ合わせていくっていうのはある意味、実証としては適切なことかなっていう気はします。（岡村）・そうですね。審査員としてご指名いただけると助かります。（八木）・了解いたしました。（冨田）・本当の意味での第三者評価ができるっていうのはすごく魅力だなというふうにも思いました。それはいるんだろうなと思うので人材の確保なり育成なりっていうのはすごく大事なテーマだなと感じました。（高岡）・メンバーが決まった時点で1回擦り合わせや勉強会的なことをやっておかないといけないのかなっていうことを思いました。（五十部）・ガイドラインを確定していきながら9・10月以降で実際の審査を行いたいと思います。そして審査のフィードバックについては、評価委員会等の意見を聞きながら最終的に完成版を作っ行きたいと考えています。（五十部）〇内部質保証人材育成プログラムの検証及び開発・内部質保証人材育成プログラムは、11月をめどに開発進めていきます。検証は、オンライン1回と対面1回をセットとして育成プログラムの開講を目指していきます。プログラムは全部で15時間ぐらいを考えています。講師はこちらも八木さんにお願いする形で考えております。・了解しました。（八木）・キャリア財団としてはスタッフデベロップメントに賛同していただいてます。ただし現状では年に1回20名の定員でしかやってないので、これを広く実施していきたいという話を今しているところです。ニュアンスとして微妙なところは、機構がやってらっしゃるプログラムのところをどのように実施するかこれから調整だろうと思ってます。もし可能であればこちらの方で引き継げますよっていう形にすると、もっと数が出せるんじゃないかと思いますし、そもそも今やってらっしゃるカリキュラム、プログラムの内容を、こちらの方に移行していただくというところを了解いただくところから始められるのかなと思います。（岡村）・TCE財団の藤井さんも少しこの件について、ご意見や補足がありましたらお願いします。（八木）・今、岡村先生がおっしゃっていただいたようにTCE財団の補助事業で内部質保証人材の養成講習を年1回2日間13時間で開催しています。私立評価研究機構の正木先生にご講演いただいてるんですが、年間に1本の研修しか打てておらず、、お申し込みも定員を超えて頂戴している状態です。オンライン版での回数を増やせたらいいなとは思っています。（藤井）・実施は11、12月ぐらいになるのかとおもいますので、追って相談させていただきます。（五十部）・審査のすり合わせは、非常に重要だと考えていますがこれはどのように行いますか？（高岡）・オンラインでも十分かなと思ってますけどが、予算的に特に問題はないですか（五十部）・審査員として参加いただく方々に謝礼を払うことは出来ますか。（高岡）・現状の予算では、費用計上していません。費用発生を前提として少し考えてみます。また、このプロジェクトに関しては、セミナー規模の縮小やオンラインによる委員会開催などが発生しているために、もう少し内容がハッキリした後に予算執行方針や残金等の再計算が必要であると考えています。（飯塚）・今後の日程を調整しておく必要はありますか。（飯塚）・作業を少し進めた後に再度調整することでお願いします。（五十部） |
| 配布資料 | ・事業計画書・令和４年度　共通基盤整備事業　第1回運営委員会資料 |

以上